

**Rolf**  
**PRIMA**

W H E E L   S Y S T E M S

オーナーズマニュアル (翻訳文)

日本正規輸入代理店 **JSK Cycling Force**

この度は、世界でも類なきホイールをご選択いただき、心より感謝申し上げます。

ロルフプリマホイールシステムでは、モデル数が多岐に亘るため、このマニュアルには、ご自身ご購入されたホイールには当てはまらない情報も含まれています。もし、このマニュアルを読まれた後に疑問が残った場合には、ご購入いただいたロルフプリマホイールの販売店にお尋ねください。 また [www.jsk-cycf.com](http://www.jsk-cycf.com) や [www.rolfprima.com](http://www.rolfprima.com) もご参照ください。

メンテナンスや修理は、ロルフプリマ販売店でのみ作業されるべきものです。それら作業項目はこのマニュアルにも記載されています。もし、ご質問などございましたら、下記宛メールにてご連絡ください。

日本正規輸入代理店 JSK Cycling Force e-mail: [jsk.cycf@gmail.com](mailto:jsk.cycf@gmail.com)

**点検 - 毎回ライド前に**

毎回ライドの前には、ここに揚げた各アイテムを必ず点検し、そのロルフプリマホイールが最高の状態でバイクに適切に取り付けられていることを確認してください。もしご自身のホイールに、プロのサービスや詳細な点検が必要だと分かった場合は、ロルフプ

リマ販売店にご相談ください。

- ホイールに振れが無いかどうか
- リムがきれいかどうか

リムやディスクの汚れや油分は、著しくブレーキ性能を低下させます。安全面において | 2  
重大な危険性を露呈することになります。

- ブレーキパッドはきれいで適切に調整されているか
- タイヤの空気圧は適正かどうか

注意！

不十分な空気圧で走行するとリムを損傷する場合があります。適正空気圧は道路状況、ライダーの体重やタイヤサイズに左右される場合があります。路面からの衝撃によるリムの損傷は、当保証の範囲外となりますのでご注意ください。

タイヤ空気圧に関しては後述の“クリンチャータイヤの空気圧”をご参照ください。

- クイックリリースのメカニズムが正しく締まっているかどうか

一部のホイールにはクイックリリースホイール保持メカニズムが搭載されています。

クイックリリースにより、ホイールは工具なしで着脱が可能となります。適切且つ安全な操作のために、このマニュアルを注意深くお読みください。

注意！

ホイールのクイックリリースを正しく調整し締付けされていなかった場合、自転車のコントロールを失い、怪我や死を招く結果になる恐れがあります。このシステムの操作にご質問がありましたら、ご購入店にご相談ください。

**クイックリリースメカニズムの操作** **【英文マニュアル ページ 3-4 イラストご参照】**

重要：このインストラクションの 1 箇所でも不可解な場合には、ホイールご購入店に持参され、正しい操作方法の実演をご依頼ください。

1. 毎回ライド前に、前後ホイールを確認する

2. クイックリリースレバーを“OPEN”の位置に開けた状態で[図 1]、ホイールを確実にフ

レームまたはフォーク爪に差し込みます。

3.“OPEN”と“CLOSE”のほぼ中間辺りにレバーを位置させ[図2]、クイックリリースシャフトの反対側の調整ナットを回して、指に固さを感じるまで締め付けます。

4.クイックリリースレバーを手の平に当てて、“CLOSED”のポジションへ完全に倒します。[図3前輪、図4後輪] “CLOSED”までの動作の途中、手の平に抵抗を感じる状態にあります。

5.もしクイックリリースレバーが、“CLOSED”ポジションまで、軽い、または全く抵抗無く押し込める場合は、締め付け力が不十分です。レバーを“OPEN”ポジションまで戻し、反対側のナットを締め足します。レバーを締め、もう一度抵抗の感触を確認します。クイックリリースが適切に固くなり、“CLOSED”ポジションまで閉め込むことができた場合、フォークまたはフレームエンドのメタルとメタルが噛み合う[跡形が残る]くらいになると、締め付け力は十分となります。クイックリリースを締め付けるには適度な力は必要ですが、難しい操作ではありません。

クイックリリースメカニズムでは、クイックリリースレバーをウイングナットのように使用してはいけません[図5] クイックリリースメカニズムを回し過ぎると、アッセンブリーを損傷することがあります。(ディスクハブシャフトと異なります)

6.クイックリリースメカニズムが正しく締まっているか確認するために、次の二つのテストを実行してください。

A. 自転車の前部を持ち上げ、握りこぶしで前輪タイヤ上部に一撃を与えます。ホイールがフォークから落ちないこと、緩まないこと、また、左右にずれることがあってはなりません。同じテストを後輪にも行います。もし疑わしい場合は、上記の2-5までの締め付け作業を繰り返します。

B. クイックリリースレバーが正しく調整され締め付けられることで、クイックリリースレバーが、図5のようにホイールに対して平行に回転させることはできない状態になります。

## 点検 - 週ごと

- 緩み、損傷、あるいはスポークの損傷がないか
- 前後リムにクラックはないか

## 点検 - 月ごと

- 前後ホイールのハブベアリングに過度な緩みがないか
- 前後リムに磨減がないか

自転車リムはブレーキングの摩擦による磨減が生じ、最後は交換が必要になります。リムのサイドウォールやブレーキ当たり面に大きな溝やクラックがないか点検します。

### 注意！

ホイールは定期的に点検してください。乗車前にはクイックリリースメカニズムは正しく閉められているか確認してください。部品の摩耗や損傷、またはクイックリリースメカニズムが正しく閉じられていない等は、大きな怪我や死を招く事故を引き起こす場合があります。

### 装着と推奨

このホイールセットに何か部品を装着しようとする前に、その部品に互換性があるものかどうか確かめてください。タイヤ、バルブ、カセットギア、ブレーキ、及びフレーム／フォークの間隔は正しくなければなりません。部品の互換性に不確かな場合は、販売店に相談しましょう。

### ブレーキとブレーキパッド

ブレーキパッドは頻繁に点検しきれいに保ってください。路面の砂、粉塵や他の物がパッドに付着し、ブレーキ当たり面の摩耗を早めてしまいます。ブレーキングした時、キーキーという音がするようなら、直ぐにパッドを点検しきれいにしてください。

### カーボンのリムブレーキ：ブレーキパッドの選択とメンテナンス

ロルフプリマ カーボンホイールは、ブレーキ当たり面専用に設計されたカーボンブレーキウォールを採用していますが、それでも熱の集中発生や摩耗には影響の受けやすい素材であることに変わりありません。これらカーボンホイールには、ロルフプリマ グレ

ーパッドが付属されています。他のパッドの使用は補償の対象外となりますので、これらのご使用を強く推奨いたします。一度でもアルミリムに使用したパッドの共用はしないでください。

リムブレーキ仕様のカーボンホイールのブレーキング方法、詳細については別紙添付の注意書きをご参照願います。 | 5

## **タイヤ**

### **リムストリップに関する大切な情報**

各ロールプリーマホイールにはリムストリップ、またはチューブレス用テープが装着されています。タイヤを装着する前に、それらがスポークホールを完全に覆っていることを確認します。もしスポーク穴が完全にカバーされていなければ突然のバーストの原因になります。

### **クリンチャータイヤの空気圧**

タイヤのサイドウォールに記載された空気圧、または、rolfprima.com のサイトに掲載された“TIRE SIZE AND PRESSURE GUIDE”（タイヤサイズと空気圧ガイド）のどちらかの値の低い方まで入れてください。タイヤに損傷がないか、摩耗し過ぎていないかどうか点検してください。タイヤの状態について疑問を感じたならば、最寄りのプロショップに点検をご依頼ください。

カーボンクリンチャーホイールに、ラテックスインナーチューブのご使用はお止めください。

### **バルブエクステンダー**

カーボンホイールの中には、各リムハイトに合うバルブエクステンダーが付属しています。エクステンダーはタイヤ装着前に取り付けてください。

>バルブスティックからバルブコアを取り除きます。

>そのバルブコアをバルブエクステンダーの雌ネジ側に取り付けます。

>バルブエクステンダーをバルブスティックにねじ込みます。この時、バルブを損傷させないように締め過ぎに注意してください。

**注意！**

互換性がなかったり間違った部品装着は、ホイールに損傷を与えたり怪我や死に至らしめる事故を引き起こす場合があります。ブレーキは調整され正しく作動するか。タイヤは適正な装着と空気圧が成されているか。新しいホイールは安全な場所でブレーキが機能するか、必ずテストしてください。

**注意！**

カーボンリムホイールは非常に高熱により損傷する可能性があります。例えば、炎天下の締め切った車両の中に放置された場合や、自動車の背面キャリアに積載し長時間排気ガスにさらされる場合などが考えられます。カーボンホイールを装着したバイクはこのような状況を避けなければなりません。

**ハブベアリングの点検と調整****点検**

時の経過と共にホイールのベアリングは摩耗するか、調整が必要になります。

**ベアリング交換**

ロルフプリマハブには様々なサイズのベアリングを使用しています。ロルフプリマ販売店にお尋ねいただければ、どのベアリングモデルが必要か調べて貰えます。交換に際しては、必ずロルフパートナーショップにお任せください。

**ROLF PRIMA 限定保証**

(下記内容は翻訳文であり解釈の不一致が生じた場合、論議は飽くまで英語原文に基づくものとします。)

ロルフプリマ社(以下 RP)は、RP の契約販売代理店、もしくは正規輸入代理店から購入した、第一購入者に対してのみ保証し、購入日から起算し5年間を期限とし、デカール及びベアリングは購入日より2年間を期限とします。新品ロルフプリマホイール(以下製品)の材料不良または製造不良を対象とします。もし当該購入者がこの期限内に材料不良もしくは製造不良を発見した場合、購入者は製品の購入証明(レシート可)を添えて、正規輸入代理店を通して、書面により速やかに RP に通知しなければなりません。通知

が届かなかった場合や、新品購入後 25 カ月が経過した後の通知は、有効となりません。製品に材料不良あるいは製造不良があり、この限定保証で要求される適切な通知が成された場合、その通知受領後適宜、RP は製造不良または材料を補修する、もしくは代替部品を供給します。もし、RP がこの限定保証に従いこの製品を修理できない場合は、RP 独自の裁量により、代替商品を供給します。労働工賃及び部品交換費用はこの保証対象外です。RP の保証に含まない内容として、(a)RP が製造していない構成部品や部品。(b)正しい純正部品にも拘わらずその組み付けミスや整備ミスによって生じた不良。(c)設計された目的以外の製品使用により生じた損傷—それが含むものとして；不適切な路面での使用、安全を無視したスピードでの使用、ヘルメットや他の適切な保護衣服や道具を着用せずに使用、(d)悪用、誤用、基本・常識を無視した使用、または普段着やその破れから引き起こされた損傷、そして(e)承認されていない部品の使用や改造、アタッチメントの使用やこれに関わる損傷。RP の従業員、輸入代理店、契約販売店または代理人の誰一人、前述の限定保証に加筆、修正することは認められません。前述の限定保証は、全ての他の保証書、表現や暗黙の了解に代わるものとします。また、米国統一商法典に定められた、商品性と特定目的適合性の「黙示的な保証」の限りではありません。

## 保証の範囲

ここに記述されたとおり、限定保証の不履行に対する唯一の救済策は、RP による修理または交換とします。RP は、それ以外の如何なる損傷あるいは保証に責任は負いません。そこに含まれるものとして；保証の不履行、契約不履行、過失、完全なる不法行為、または他の合法的理論に基づく特殊、付随的且つ間接的な損傷。更に、人への身体的障害や財産に関わる、もしくはそこに起因する損傷も含まれます。